

事業の展望

わが国の金融市場環境は、欧米の不安定な経済状況を踏まえて、引き続き弱含みの展開を続けていくことが懸念される中、多額の復興支援債の発行が条件付けられ、その財源にも窮するなど、基本的に現在の超低金利時代は継続していくものと推察されます。

かかる時代背景を経営戦略に折込み、当金庫は真の地域金融機関としての使命と役割りを果たすべく、常にお客様を見据えた経営戦略を土台に、face to face に集約される「お客様の心をお預かりして、ハートのある資金をご融資する」という地域金融機関の伝統的なコア業務部門に磨きをかけ、佐賀長崎になくてはならない選ばれる信用金庫としてさらに成長発展を遂げるよう従業員一丸となり頑張っております。

地域貢献

ひぜん経営者セミナーの開催

日時：平成23年9月14日(大村地区)
平成23年9月15日(佐賀地区)
平成23年9月16日(佐世保地区)

講師：鉢嶺 実氏
(信金中央金庫 地域・中小企業研究所)

内容：環境変化に挑む中小企業者の経営
～時代に挑む! 中小企業の熱き経営者たち～

九州ひぜん信用金庫は、ひぜんビジネスクラブ会員である地元企業経営者等の皆様に対して、情報収集・発信・支援等のお手伝いを行っております。

今年度は、信金中央金庫 地域・中小企業研究所の鉢嶺様を講師にお招きして、「中小企業を取り巻く環境変化と目指すべき対応の方向性」、「環境変化に挑む全国の中小企業の対応事例」を中心にセミナーを行い、3地区で参加頂いた170名の会員様に好評を得ました。



店舗一覧

本部	〒843-0024	佐賀県武雄市武雄町大字富岡8894番地	☎0954-23-1281
本店営業部	〒843-0024	佐賀県武雄市武雄町大字富岡8894番地	☎0954-23-1181
大町支店	〒849-2102	佐賀県杵島郡大町町大字福母381番地1	☎0952-82-3181
白石支店	〒849-1112	佐賀県杵島郡白石町大字福田1535番地1	☎0952-84-4181
嬉野支店	〒843-0301	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙553番地2	☎0954-42-0181
鹿島支店	〒849-1311	佐賀県鹿島市大字高津原4034番地3	☎0954-62-7181
宮野町支店	〒843-0022	佐賀県武雄市武雄町大字武雄7319番地	☎0954-23-2181
北方支店	〒849-2204	佐賀県武雄市北方町大字大崎1095番地3	☎0954-36-5181
山内支店	〒849-2303	佐賀県武雄市山内町大字三崎甲13821番地1	☎0954-45-6181
佐世保営業部	〒857-0043	長崎県佐世保市天満町1番15号	☎0956-22-5181
本島支店	〒857-0871	長崎県佐世保市本島町1番6号	☎0956-24-5181
大宮支店	〒857-0841	長崎県佐世保市大宮町8番19号	☎0956-31-6126
俵町支店	〒857-0016	長崎県佐世保市俵町9番12号	☎0956-23-1101
大野支店	〒857-0136	長崎県佐世保市田原町10番12号	☎0956-49-3341
相浦支店	〒858-0918	長崎県佐世保市相浦町1615番地2	☎0956-47-3105
早岐支店	〒859-3215	長崎県佐世保市早岐2丁目3番17号	☎0956-38-3148
大村支店	〒856-0826	長崎県大村市東三城町5番地	☎0957-52-2141
竹松支店	〒856-0805	長崎県大村市竹松本町956番地1	☎0957-55-7144
諫早支店	〒854-0072	長崎県諫早市永昌町18番1号	☎0957-26-3556
西大村支店	〒856-0024	長崎県大村市諏訪1丁目604番地1	☎0957-52-4100

街に笑顔の花咲かせましょう
九州ひぜん信用金庫

<http://www.hizeshin.co.jp/>

九州ひぜん信用金庫ディスクロージャー誌 (平成23年9月末)

ひぜん経営レポート

2011・9・30



街に笑顔の花咲かせましょう
九州ひぜん信用金庫

平成23年度上期事業の概況

事業方針

当金庫の経営理念である①中小企業の健全な育成発展、②豊かな国民生活の実現、③地域社会繁栄への奉仕のもと、経営方針として「透明性が高く、特色と存在感があり、お客さまの好感度と満足度を高める経営の実現」により「地域密着型金融の徹底(町医者機能の強化)と十分な資本の備え(健全性の向上)」を図ることを掲げ、「地域社会の持続的な繁栄に奉仕する信用金庫」を目指しています。

金融経済環境

九州・沖縄における景気判断としては、「個人消費や生産の一部で弱めの動きがみられるものの、全体としては持直しの動きを続けている」(日本銀行 地域経済報告)。

東日本大震災の直接的な被害はなかったものの、自動車のサプライチェーン寸断などから、九州の経済活動も大きく落ち込みましたが、4月以降はサプライチェーンの復旧が急速に進展し、生産活動は持直しの動きを強めつつあります。

また、雇用情勢や個人消費の悪化も一過性とみられ、景気は全体として緩やかな回復へ向かいつつあります。

観光・宿泊施設については大震災後の自粛ムードによりが大きく落ち込みましたが、九州新幹線全線開業の効果等から持直しつつあります。

半期の業績

預金積金の残高は、前年同月比0.91%増加して119,504百万円となりました。また、貸出金の残高につきましては、個人消費資金が減少したものの、事業性資金および地公体向け貸出金が堅調に推移し、前年同月比1.13%増加して74,130百万円となりました。

収益面に関しまして、欧米景気悪化懸念により市場金利が低下したことから、貸出金利息、預け金利息が減少しました。この結果、経常収益は前年同月比7.43%減少して1,334百万円となりました。

費用面に関しましては、当金庫自己査定基準に基づき経営基盤の強化を図るため、個別貸倒引当金として154百万円の積み増しを行いました。一方、市場動向により預金利息が減少したこと、合併2年目となり物件費が減少したことから、経常費用は前年同月比6.13%減少して1,306百万円となりました。この結果、経常利益は前年同月比69.65%減少して27百万円を計上することとなりました。

また、利益剰余金の確保による自己資本額の増加と、リスク資産の軽減効果でリスクアセットが減少したことから、自己資本比率は前年同月から0.30ポイント増加して9.93%(前年同月実績 9.63%)となりました。

主要勘定(預金・貸出金・有価証券)の状況

〈末残〉			(単位：百万円)	
区分	平成22年9月期	平成23年9月期		
預金積金	118,415	119,504		
貸出金	73,290	74,130		
有価証券	14,301	21,004		
〈平残〉			(単位：百万円)	
区分	平成22年9月期	平成23年9月期		
預金積金	118,951	118,647		
貸出金	73,889	73,493		
有価証券	14,947	21,321		

貸出金残高の内訳

(単位：百万円)		
	平成22年9月期	平成23年9月期
製造業	2,913	3,346
農業、林業	161	149
漁業	81	75
鉱業、採石業、砂利採取業	92	81
建設業	4,442	4,710
電気・ガス・熱供給・水道業	22	17
情報通信業	159	51
運輸業、郵便業	674	547
卸売・小売業	7,566	7,316
金融業、保険業	259	215
不動産業	14,278	14,886
物品賃貸業	662	544
学術研究、専門・技術サービス業	62	44
宿泊業	3,537	4,248
飲食業	2,220	2,239
生活関連サービス業、娯楽業	2,528	2,420
教育、学習支援業	327	287
医療、福祉	3,940	3,370
その他のサービス	2,538	2,867
小計	46,471	47,421
地方公共団体	5,922	6,650
個人	20,896	20,058
合計	73,290	74,130

店舗及び常勤役員数

(単位：百万円)		
	平成22年9月期	平成23年9月期
店舗数	19	19
常勤役員数	203	200
1店舗あたり預金量	6,232	6,289
職員1人あたり預金量	583	597

損益の状況

(単位：百万円)				
	平成22年9月期		平成23年9月期	
経常収益	1,433		1,334	
業務収益	1,430		1,332	
うち資金運用収益	1,283		1,196	
臨時収益	3		1	
経常費用	1,387		1,306	
業務費用	1,220		1,141	
うち資金調達費用	104		66	
うち経費	973		944	
うち一般貸倒引当金	10		8	
個別貸倒引当金繰入	38		154	
貸出金償却	-		-	
その他臨時費用	128		10	
経常利益	46		27	
業務粗利益	1,193		1,144	
コア業務純益	159		152	

金融再生法ベースの債務者区分による開示

(単位：百万円)		
開示債権区分(自己査定)の債務者区分)	平成22年9月期	平成23年9月期
破産再生債権及びこれらに準ずる債権(破綻先、実質破綻先)	3,874	4,287
危険債権(破綻懸念先)	4,238	2,916
要管理債権(要注意先)	640	327

[注記]
 本表の金融再生法による開示は、貸出金及び債務保証等の貸出金以外も開示の対象となっております。
 [区分の説明]
 1. 「破綻更正債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
 2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
 3. 「要管理債権」とは、「3ヶ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。

単体自己資本比率(国内基準)

(単位：百万円)		
	平成22年9月期	平成23年9月期
基本的項目の額	5,413	5,531
自己資本の額	6,153	6,245
リスク・アセット等計	63,854	62,874
基本的項目(Tier1)比率	8.47%	8.79%
単体自己資本比率	9.63%	9.93%

有価証券の時価情報

(単位：百万円)									
その他保有目的	平成22年9月期				平成23年9月期				
	時価	評価差額		時価	評価差額		時価	評価差額	
		うち益	うち損		うち益	うち損		うち益	うち損
株式	160	△29	3	33	184	△51	2	54	
債券	6,943	259	270	10	13,717	160	219	58	
その他	2,144	△311	63	374	1,851	△390	7	398	
合計	9,248	△80	337	418	15,753	△281	229	511	

[注記]
 1. 平成23年9月末の「評価差額」および「含み損益」は、平成23年9月末時点の帳簿価格(償却原価法適用後)と時価との差額を計上しております。
 2. 譲渡性預金、コマーシャル・ペーパー、および貸付信託受益権等はありません。
 3. 子会社・関連会社株式はありません、なお満期保有目的の債券に係る含み損益は以下のとおりです。

(単位：百万円)									
満期保有目的	平成22年9月期				平成23年9月期				
	帳簿時価	評価差額		帳簿時価	評価差額		帳簿時価	評価差額	
		うち益	うち損		うち益	うち損		うち益	うち損
株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-
債券	4,084	68	83	14	4,281	56	70	13	
その他	968	△139	15	155	969	△186	-	186	
合計	5,052	△70	99	170	5,250	△130	70	200	